

厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)

総括研究報告書

医療機関外死亡における死後画像診断に関する研究

研究分担者 今井 裕 東海大学医学部専門診療学系画像診断学 教授

研究要旨

死後画像診断に必要なガイドライン作成を目的として、これまでに報告されているエビデンスに基づいた内容とし、実際に読影する多くの医師に活用されるようなガイドラインとする。

研究分担者氏名:今井 裕

所属研究機関・所属研究機関における職名:

東海大学医学部専門診療学系画像診断学教授

射線学会のホームページに掲載して、学会員からパブリックコメントを得た。得られたコメント内容については、班会議の中で吟味・検討し、必要であれば、その内容もガイドラインに反映させた。

A. 研究目的

死後画像読影ガイドライン(案)の内容を実際読影時に活用されるかを十分に検討する。さらに、ガイドライン(案)は、関連する医師を中心にパブリックコメントを得て、その内容もガイドラインに反映させる。

(倫理面への配慮)

個人情報の保護が確実になされ、具体的な事例が特定できないように配慮した。また、死後画像読影ガイドラインとして刊行するため、多くの異なる立場の読者にも受け入れられるような内容にした。

B. 研究方法

班会議では、死後画像読影ガイドライン(案)の内容がより分かりやすくなるように、全体の校正などを考慮し、修正、あるいは加筆を行った。特に、用語の統一には留意した。また、掲載する画像は、法医学、病理学、あるいは放射線科医など異なる専門家のいずれでも分かりやすいように工夫した。

C. 研究結果

多くの執筆者が担当しているため、用語を統一したことにより、誤解のない内容に修正された。また、日本医学放射線学会のホームページに掲載されたガイドライン(案)に対して、多くの質問や意見が寄せられた。これらに対して、班会議では、ガイドラインに反映させるべき内容とそうでない内容に分け、取り上げてコメントを反映させるように修正を

さらに、ガイドライン(案)は、日本医学放

加えた。また、ガイドラインの目的や活用方法に関する質問もあった。

D. 考察

今回作成した死後画像読影ガイドラインは、医療機関外死亡を対象とするため、診療関連死と異なり死後ある程度の時間を経た死体も含まれるため、死後変化の画像所見の理解が重要であると同時に極めて難しいことが分かった。したがって、今後も死後変化に対応する画像所見の変化を系統的に理解できるような研究が必要である。

また、現状では死後画像診断は、主にCTで撮影されているが、海外の報告ではMRIが有用であったとの報告もあり、今後はCT以外の画像診断装置を活用することも必要であると言える。このことは死後画像診断を用いることで危惧されているいくつかの点の改善、あるいは将来の制度設計に役立つのではないかと考えられた。

E. 結論

死後画像読影ガイドラインの策定を行い、刊行の予定となった。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1) Ichikawa T, Imai Y, et al. A case of right renal artery originating from the thoracic aorta, Japanese Journal of Radiology, 32; 716-720、

2014年12月

2) Ichikawa T, Imai Y, et al. A case of combined parathoracic air cyst and accessory cardiac bronchus, Tokai J Exp Clin Med, 39; 87-89、2014年7月

3) Ichikawa T, Imai Y, et al. A case of right double inferior vena cava with circumcaval ureter, Japanese Journal of Radiology, 32(7); 421-424、2014年7月

4) 丹羽 徹、今井 裕ほか、MR angiography, 日本臨床増刊号, 72; 504-508、2014年7月

5) Ichikawa T, Imai Y, et al. Detection of early esophageal cancer and cervical lymph node metastases by 18F-FDG PET/CT in a patient with Fanconi anemia, Clinical Nuclear Medicine, 39; 459-461、2014年5月

6) 丹羽 徹、今井 裕ほか、膠芽腫、臨床画像, 30; 1213-1221、2014年11月

7) Itou C, Imai Y, et al. Foam Sclerotherapy for a Symptomatic Hepatic Cyst: A Preliminary Report, Cardiovasc Intervent Radiol, 37(3); 800-804、2014年6月

8) 千野 修、今井 裕ほか、食道裂孔ヘルニア術後のLSBEに発生した表在型Barrett食道腺癌—内視鏡所見の遡及的経過観察—, 消化器内視鏡, 26(4); 597-604、2014年4月

2. 学会発表

1) Imai Y. Clinical Impact of CT Colonography and MRI for Colorectal Disease, The 15th Asian Oceanian Congress of Radiology (AOOCR), 2014年9月

2) Niwa T, Imai Y, et al. Age-related changes of

susceptibility and phase at subependymal nodes in infants and children with tuberous sclerosis, The 15th Asian Oceanian Congress of Radiology (AOCR), 2014 年 9 月

3) Niwa T, Imai Y, et al. Improvement of the image quality of iterative reconstruction in helical CT of the head in children. 第 50 回日本医学放射線学会秋季臨床大会、2014 年 9 月

4) Niwa T, Imai Y, et al. Phase distribution of white matter using phase difference enhanced MRI, ISMRM-ESMRMB, 2014 年 5 月

5) Niwa T, Imai Y, et al. Volumetric assessment of fetal organ development using whole-body 3D-true-FISP, ISMRM-ESMRMB, 2014 年 5 月

6) Ichikawa T, Imai Y, et al. Renal artery anomalies associated with horseshoe kidney using CT angiography, 第 73 回日本医学放射線学会、2014 年 4 月

7) 厚見 拓、今井 裕ほか. 鼻腔数値シミュレ-

ションと鼻腔通気度, 第 53 回日本鼻科学会総会 学術講演会、2014 年 9 月

8) 横山 宗昂、今井 裕ほか. レーザー誘起光音響法と MRI による変形性膝関節軟骨診断の比較検討, 第 87 回日本整形外科学会学術集会、2014 年 5 月

9) 丹羽 徹、今井 裕ほか. 位相差強調像による新生児白質構造の描出, 第 42 回日本磁気共鳴医学会大会、2014 年 09 月

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし